

JICA関係者限定資料

インドネシア

ウジュンパンダン編

任国情報

1999年

JICA LIBRARY



J 1157247 (6)

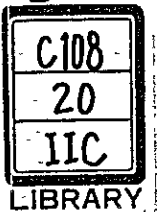
国際協力事業団

国際協力総合研修所



目
次
お
ま
け

JICA



は し が き

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家などのJICA関係者に、赴任国での生活上必要な情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様から多大なご協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関のご好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の公式見解ではないことを付記いたします。

平成12年 4 月

国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1157247 [6]

目 次

I 概 況	i
<ウジュンパンダン編>	
II 生活事情	1
1. 食生活	1
2. 衣 料	4
3. 住 宅	6
4. 医 療	8
5. 教 育	12
6. 家庭の使用人	15
7. 交通事情	17
8. 通 信	19
9. マスコミ	20
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	22
11. その他のサービス	25
12. 観 光	25
13. 治安、緊急時の心得	28
14. 出入国手続きおよび帰国手続き	29
15. 私財の輸送、引き取り、購入	30
16. 社 交	31
17. 任国官公庁	33
18. 在外日本関係機関など	33
19. 地方都市	33

I 概 況

表-1：インドネシア概況

正式国名	(和文) インドネシア共和国 (英文) Republic of Indonesia*注1
独立年月日 旧宗主国	1945年8月17日*注2 オランダ
政 体	共和制*注3
元 首	バハルディン・J・ハビビ (Bacharuddin J.HABIBIE) 大統領*注2
面 積	北緯6～南緯11度、東経95～141度 1905千km ² *注4
首 都	ジャカルタ*注5
総人口	197百万人*注6
民 族	ジャワ族、スンダ族など大別して27種族
公用語	インドネシア語*注2
宗 教	イスラム教90%、キリスト教プロテスタント5%、 カトリック2%他*注7
暦	<日本との時差> -2時間*注2 <祝祭日> (1999年)*注8 1月1日 新年 *1月19日 断食明け大祭 *3月28日 犠牲祭 4月2日 聖金曜日 *4月17日 イスラム暦新年 5月13日 キリスト昇天祭 5月30日 Vesak Day *6月26日 モハメッド降誕祭 8月17日 インドネシア共和国独立宣言記念日 *11月6日 モハメッド昇天祭 12月25日 クリスマス *は年によって日が異なる

出所 注1：「国際協力事業団法令・規定集」

注2：「世界年鑑」1999 共同通信社

注3：「インドネシア国概況」1998年8月 外務省

注4：「国際情報大辞典」1992 学習研究社

注5：「アフリカ便覧 1998年度版」アフリカ協会

注6：World Development Indicators(WBI)-1998 出典年:1998

注7：「海外生活の手引き 東南アジア編Ⅱ」1995 世界の動き社

注8：The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

1. 国土の概要

国名のインドネシアは、ギリシャ語の「インドス (Indos)」と「ネソス (Nesos)」という2つの単語からなっており、「東インドの島々」という意味をもつ。その名の通り、インドネシアは赤道をはさんで北緯6度から南緯11度、東経95度から141度に位置する、ジャワ、スマトラ、カリマンタン、スラウェシ、イリアン・ジャヤなど大小1万3000あまりの島々から成る世界最大の島嶼国家である。南北1900km、東西5100kmにおよび、その面積は1905千km²で日本の5倍ほどである。ジャワ島には全人口の6割が居住しており、首都ジャカルタが政治・経済・文化の中心となっている。海をはさんで南はオーストラリア、北はフィリピンに、またカリマンタン島でマレーシア、イリアン・ジャヤでパプア・ニューギニアに接している。石油や天然ガス、木材、水産物など各種天然資源に恵まれた国であり、350年にわたるオランダの植民地支配、日本による軍政を経て1945年に共和国として独立を遂げた。

インドネシアの地勢は2つの山系によって特徴づけられている。一方は北からフィリピンを経て東インドネシアに、他方はビルマ山系の延長として、スマトラ西岸からジャワ、バリを経て群島の北東部を通り、スラウェシに至るものである。インドネシアは環太平洋活火山帯に属し、全国に128の火山があり、そのうち78が活火山である。ジャワ島はメラピ火山をはじめ火山が多く、そのうち21が活火山である。

(参考文献)

- 『東南アジアを知る事典』1986 平凡社
- 『国際情報大辞典』1992 学習研究社
- 『Indonesia Travel Guide』1991 インドネシア政府観光局

2. 気候

赤道多雨地帯に位置し、全体に高温・多湿の熱帯性気候である。

年間を通じて季節の変化はなく、半年ごとに雨期と乾期を繰り返す。乾期(6～9月)にはオーストラリア大陸からの季節風が吹き、雨期(12～3月)にはアジア大陸、太平洋からの季節風が雨をもたらす。なお、マルク地方は他の地域と異なり、6～9月が雨期、12～3月が乾期である。雨期と乾期の移行は緩やかに行われる。

降雨量はきわめて多く、年間雨量が2000mmを超えるところも見られるが、東部地域では雨量が少ない。平均湿度は高く、年間を通じて75～85%である。日長変化が少ないこともあり、年間の気温の変化は小さい。また、年間平均気温は海岸地帯において27℃、内陸部においては25℃、山間地帯において22℃程度である。

表-2：平均気温/降水量

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
気温(°C)	26.3	26.5	26.9	27.5	27.7	27.3	27.1	27.1	27.5	27.7	27.4	26.8	27.15
降水量(mm)	461.3	269.4	249.8	144.7	112.1	93.6	46.8	75.8	53.2	78	109.1	233.7	160.62

(参考文献)

- 【インドネシア農業の概要】1991 国際農林業協力協会
- 【国際情報大辞典】1992 学習研究社
- 【Indonesia Travel Guide】1991 インドネシア政府観光局

3. 人口

- ・総人口：197,054,540人
- ・人口増加率：1.6%
- ・人口密度：108.8人/km²

主要都市人口は、ジャカルタ934万人、スラバヤ274万人、メダン194万人、バンドン243万人、スマラン137万人、パレンバン139万人（1996年現在）。

(参考文献)

- World Development Indicators(WB)-1998 出典年：1998/統計年：1996
- 【世界年鑑】1998 共同通信社
- The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications

4. 略史

表-3：インドネシア略年表

年	出来事
7世紀	スマトラを中心に仏教王国スリウィジャヤ王国誕生
8世紀	ジャワ島内陸部にヒンズー教国のマタラム王朝誕生
14世紀	ヒンズー教国マジャパヒト王朝がインドネシア全域を支配
16世紀	イスラム教国が発展
1512年	ポルトガル人がモルッカ諸島のアンボンを占領、香料貿易を独占
1602年	オランダがジャワ島に東インド会社を設立、植民地経営に乗り出す
1800年	オランダ政府がインドネシアを直轄統治
1825年	オランダからの独立運動がジャワ戦争に発展
1927年	スカルノ、インドネシア国民党を創設

1942年	日本軍の軍政下に入る
1945年	日本の敗戦によりスカルノがインドネシア独立を宣言、大統領に就任し、憲法(1945年憲法)を發布
1947年	オランダと戦争が勃発
1949年12月	オランダがインドネシア連邦を承認
1950年	暫定憲法(1950年憲法)を發布。連邦制を廃止し、中央集権的なインドネシア共和国が成立
1955年4月	アジア・アフリカ会議(バンドン会議)開催
1959年	大統領の権限が強い1945年憲法復活、独裁政治開始
1965年	マレーシアの独立に反対し国連を脱退。共産勢力によるクーデター未遂事件でスカルノ政権崩壊へ(9.30事件)。スハルト少将率いる陸軍は共産党勢力を弾圧、共産党を非合法化
1968年	スハルトは大統領に就任。マレーシアと和解、国連に復帰。中国と国交凍結など西側傾斜を明確にし、外国援助・外資導入による経済開発を推進
1976年	東チモールを合併
1990年	中国との国交を正常化
1991年11月	東チモール、ティリ市にて騒乱事件が発生
1992年	総選挙を実施。与党ゴルカルが勝利
1993年3月	スハルト大統領が6選を果たす。トリ・ストリスノ前国軍司令官が副大統領に就任
1996年10月	ベロ司教およびラモス・ホルタ氏がノーベル平和賞を受賞し、東チモール問題が改めて注目を集める
1997年5月	総選挙を実施。与党ゴルカルが勝利
1998年3月	スハルト大統領が7選を果たすが、学生を中心に大統領退陣要求の動きが活発化し同年5月辞任、ハビビ副大統領が大統領に就任、新内閣が成立

(参考文献)

『インドネシア国概況』1999年12月 外務省

『世界年鑑』1998 共同通信社

「国別協力情報ファイル」国際協力事業団

5. 民族

大半がマレー系からなる民族により構成されている多民族国家で、ジャワ族、スンダ族など27種族に大別されるが、小民族を含めればその数は数百に達する。

なお、地域別の各民族の人口(いずれも概数)は以下のとおりである。

ジャワ島およびその周辺：ジャワ族 3700万人、スンダ族 1200万人

スマトラ島およびその周辺：バタック族 150万人、アチェ族 100万人、ランブン族100万人、ミナンカバウ族 300万人

カリマンタン島：ダヤク族 100万人

スラウェシ島およびマルク諸島：マカッサル族・ブギス族 350万人、トラジャ族 100万人、ミナハサ族100万人

小スンダ列島：バリ族 200万人、ササク族70万人

このほか、主としてオランダ統治時代に各地に流入してきた華僑が、大きな経済力をもっている。

(参考文献)

【東南アジアを知る事典】1986 平凡社

【インドネシア農業の概要】1991 国際農林業協力協会

【東南アジア要覧】1992 東南アジア調査会

6. 言語

公用語はインドネシア語 (Bahasa Indonesia) である。ほかにジャワ、スンダ、ミナンカバウ、バリなど約250もの独立した言語があるが、独立に際し、マレイ半島から周辺諸島地域にかけて商業用共通語として広く使用されていた「ムラユ語」を採用し「インドネシア語」として標準化し普及させた結果、現在では全国的に通用しており、ほかのアジア・アフリカ諸国のような言語抗争は見られない。

(参考文献)

【もっと知りたいインドネシア】1982 弘文堂

【東南アジアを知る事典】1986 平凡社

【東南アジア要覧】1992 東南アジア調査会

7. 宗教

インドネシアの宗教は、大別してイスラム教90%、キリスト教プロテスタント5%、カトリック2%、ヒンズー教、仏教および原始宗教1%に分けられる。イスラム教が全体の9割を占めているが、国教ではない。アラブ民族と比べると、他の宗教の影響などにより戒律が緩やかな面がある。

(参考文献)

【海外生活の手引き 東南アジア編Ⅱ】1995 世界の動き社

8. 文化

インドネシアの文化は、古くからあるアニミズムとあとから入ってきた諸宗教およびポルトガル・オランダからの西欧思想とが混合され、融合されてできた独自のものである。習慣や伝統の基本理念としては、「和合の精神（ムシャワラ=Musyawahar）」と「相互扶助（ゴトン・ロヨン=Gotong Royong）」とがある。これらは自治農村の生活様式から発生したもので、現在でも全国的に共同生活の場で生きている。

インドネシアの法制度は、古代オランダの刑法典を基礎としているが、社会生活においては「慣習法（アダット:Adat）」が絶対的な法律として守られている。また、宗教も強い影響力をもち、伝統的な風習などの日常生活から人生の通過儀礼や村単位・国単位の行事に至るまで、インドネシア人の生活の隅々に浸透している。

インドネシアにおける芸術様式は、各時代の宮廷内で宗教儀式に欠かせない重要な要素の一つとして発達してきたために、非常に多彩かつ完成度の高い優れたものとなっている。

ジャワ舞踊やバリ舞踊は、その題材の多くをヒンズー叙事詩のラーマー・ヤナやマハーバー・ラタからとっている。これらの舞踊や「ワヤン・クリット (Wayang Kulit)」と呼ばれる影絵芝居は「ガムラン (Gamelan)」というオーケストラの伴奏で上演される。ガムラン以外にも、北スラウェシの竹製木琴コリントンや西ジャワの竹製打楽器アングルンなどインドネシア各地には、その土地特有の楽器が数多く存在する。

(参考文献)

『東南アジアを知る事典』1986 平凡社

『Indonesia Travel Guide』1991 インドネシア政府観光局

『国際情報大辞典』1992 学習研究社

9. マス・メディア

(1) 新聞

1990年8月、政府は国内紙および外国の新聞の検閲を緩和することを決めた。これによって政府は法律に違反した新聞に対する発禁処分を控えることと見られた。しかし実際には政府の方針に変化があり、1994年6月、政府は3つの主要な定期刊行物を発禁処分にした。

主要な日刊紙は次のとおりである（記述言語はすべてインドネシア語）。

新聞誌名	発行部数	備 考
KOMPAS	52万3453	最大高級紙。カトリック系
Pos Kota	50万	中立系の大衆紙
Media Indonesia	25万1517	中立系の新鋭紙
Suara Merdeka	20万	民族系
Berita Buana	15万	穏健な中立系
Merdeka	13万	民族系。独立後の最古紙
Harian Terbit	12万5000	中立・標準的な新聞
Jawa Pos	12万	バンドン発行。中立系
Pikiran Rakyat	15万	中立系
Surabaya Post	11万5000	政府系
Suara Karya	10万	

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1998 Europa Publications
 『海外生活の手引き 東南アジア編Ⅱ』1995年 外務省

(2) 放送

インドネシアは1991年の情報大臣令によってオープン・スカイ・ポリシーを採用しており、特にインドネシアだけを対象として送り込まれてくる電波を除いては、すべての外国からの放送の受信を許可している。

1992年現在、国内で約28.1百万台のラジオと、約11.5百万台のテレビが普及している。1989年3月、国内で最初の民営テレビ局がジャカルタで放送を開始した。1994年までに5局の民営テレビ局が運営されている。ほかに多数の民営ラジオ局がある。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

10. わが国との関係

(1) 日本との外交関係概要

太平洋戦争中、日本軍がインドネシア人約30万人を徴用し、多くの犠牲者が出た。1958年1月に平和条約と賠償協定が結ばれ、同年4月15日に国交が樹立された。1961年7月には友好通商条約が締結されている。

スハルト大統領は、宮澤首相と1993年1月および7月に会談を行った。1994年3月24日、政府はニューギニア島北方のビアク島で日本側と協力して建設した「第二次世界大戦慰霊碑」を落成した。1994年11月13日、APEC出席のため訪問した村山首相が大統領と会談し、今後も積極的に経済協力を進めていく考えを示した。1997年1月、3日間の公式訪問のためジャカルタを訪れた橋本首相は同月10日にスハルト大統領と会談した。ムルディオノ国家書記・国務相によれば、スハルト大統領はこの会談でインドネシア国民車製造について背景説明を行ったが、橋本首相は「国民車の製造はWTOの枠組みの中で国際協定に沿って行われる必要があると信じている」と語った。スハルト大統領はさらに、開発途上国における肥料工場の開発について日本の援助を求め、橋本首相はインドネシアの申し入れを真剣に検討することを約束した。

1997年1月9～11日にASEAN 歴訪の一環として橋本首相はインドネシアを来訪した。

(参考文献)

「国別協力情報ファイル」1998 国際協力事業団

(2) 要人往訪 (1990年以降)

1991年10月	天皇・皇后両陛下
1992年	渡辺郵政大臣、渡部通産大臣
1993年	宮澤総理大臣、森通産大臣、秋篠宮殿下
1994年	久保田前経済企画庁長官、秋篠宮殿下、村山総理大臣、橋本通産大臣・河野副総理兼外務大臣
1995年	武村大蔵大臣、橋本通産大臣、福田外務政務次官
1996年7月	池田外務大臣 (第3回A R F会合出席、ASEAN拡大外相会議、日・イ外相会談)
1997年1月	橋本総理大臣

(3) 要人来訪 (1990年以降)

1990年	イスマイル・サレー法務相、ウイジョヨ共和国顧問、ラディウス調整相、アラタス外相、ギナンジャール鉱業・エネルギー相、スハルト大統領 (即位の礼参列)、ハビビ研究技術担当相
1991年	ハルタルト工業相、ウイジョヨ共和国顧問、ラディウス調整相 ハルヤティ社会相、ギナンジャール鉱業・エネルギー相
1992年	アラタス外相、エミル・サリム人口・環境担当相、スダルモノ副大統領

	領、ウイジョヨ共和国顧問、ハラハップ林業相、スマルリン蔵相、スハルト大統領、ムルディオノ国家官房長官、ウイジョヨ共和国顧問、ブルタニル・アリフィン協同組合相、ラディウス調整相、スパルジョ調整相、ハビビ研究技術担当相
1993年	サルウォノ環境相、スハルト大統領、アラタス外相、ムルディオノ国家官房長官、ウイジョヨ大統領経済顧問、ヨープ・アヴェ観光・郵政・通信相、ウイジョヨ大統領顧問、ワルディマン教育相、スジャナ鉱業・エネルギー相、ジャマルディン林業相、アリウイボウォ工業相
1994年	ハルヤント運輸相、ギナンジャール国家開発企画担当国務相、ハビビ研究技術担当国務相、サルウォノ環境相、ジャマルディン林業相、バヌルスマン国家警察長官、ワルデシマン教育文化相、サレ・アフイフ経済・財政・開発監察担当調整相、マリ蔵相、ハヨノ・イスマン青年・スポーツ相、サニョト投資担当国務相、エディ・スドラジャット国防治安相、アリウイボウォ工業相、タクラウェルダヤ協同組合・中小企業相、スジャナ工業エネルギー相、ハルヨノ人口担当国務相、ラティフ労働相
1995年	ハルタルト工業商業担当調整相、ウイジョヨ大統領経済顧問、ギナンジャール国家開発企画庁長官、アラタス外相、スハルト大統領
1996年	トゥンキー商工業大臣、ギナンジャール国家開発企画庁長官、ハビビ研究技術大臣、サレ・アフイフ調整大臣、ハルモコ情報大臣（与党総裁）
1997年	ギナンジャール国家開発企画庁長官、サレ・アフイフ経済・財政・開発監察企画庁長官、ワルディマン教育文化大臣

(参考文献)

「国別協力情報ファイル」1998 国際協力事業団
「外交青書」1996、1997、1998 外務省

表-4：経済指標 [インドネシア] 統計年：1997年

GDP (百万USドル)	*注1	214995
1人あたりGNP (USドル)	*注1	1110
実質GDP成長率 (%) (1990~1997年平均)	*注1	7.5
消費者物価上昇率 (%) (1990~1997年平均)	*注1	8.6
失業率 (%)	*注2	N.A.
貿易収支 (百万USドル)	*注1	18429
輸出額(fob)		50371
輸入額(fob) (1998年)	*注3	31942
主要輸出入相手国 (1998年)	*注4	輸出：日本 (18%) 輸入：日本 (15.7%)
経常収支 (百万USドル) (1998年)	*注3	3972
対外債務残高 (百万USドル)	*注2	136174
対外債務返済比率 (%)	*注2	30.0
外貨準備高 (百万USドル)	*注1	16587
為替レート (1998年末)	*注3	1USドル=8025.0ルピア
会計年度		4月1日~3月31日

出所 注1：World Development Indicators(WB)-1999 出典年：1999/統計年：1997

注2：Global Development Finance 1999 World Bank

注3：International Financial Statistics January 2000 IMF

注4：Country Report：4th quarter 1999 Indonesia EIU

Ⅱ 生活事情

<ウジュンパンダン編>

1. 食生活

1-1 食生活

(1) 一般事情

パサール、スーパーマーケットでの入手となる。

パサールでは、食料品のほかに日用雑貨、衣類も扱っている。一般に、量は豊富であるが質はあまり期待できない。衛生状態もよいとはいいがたい。冷蔵庫やショーケースもなく、無造作に並べてあるだけなので、慎重に選定する必要がある。慣れないうちは目的の品を見つけるのに苦労するため、当地の人（家政婦／夫など）に同行してもらうとよい。そのほうが値段交渉などもスムーズである。計り売りが多い。

スーパーも街に複数あり、パサールでの買い物に比べれば便利である。ショーケースはあるものの管理は不十分なので、製造年月日などをよく確かめて購入すること。

最近では物価の上昇が著しい。パサールでは値引き可能である。

ネズミ、ゴキブリ、アリなどが多いので、食料品の保管、保存に留意すること。

(2) 主な食料の出回り状況

<穀類>

米、もち米、食パン、マカロニ、米粉、スパゲティ、春巻・餃子の皮、ジャガイモ、サツマイモ、春雨、片栗粉、しらたき、こんにやくなどがある。

<食料油>

パサールやスーパーでバター、ヤシ油、オリーブ油、コーン油、日本食品店では日清天ぷら油、ゴマ油、ラー油がある。

<豆類>

豆類は種類が豊富である。パサールなどでうずら豆の小さい物や豆腐（日本のとは味が若干違う）、日本食品店ではインドネシア産の味噌がある。

<魚介類>

パサールなどにエビ、イカ、アジ、小型カツオ、タイ、タチウオ、カニ、しらすがある。日本食品店には冷凍魚（サケ切り身・サンマ）、煮干し、削りカツオブシ、塩辛、海苔、タラコ、明太子などがある。

<肉類>

パサールには豚、鶏、牛、羊の肉、スーパーにはハム、ソーセージ、輸入牛肉も

ある。

<乳製品>

パサールなどで粉乳、練乳、スーパーではヨーグルト、ホイップクリーム、チーズなどを入手できる。

<野菜>

パサールやスーパーでキャベツ、ニンジン、キュウリなど、たいていの物は入手できる。日本食品店ではたくあん、福神漬け、梅干、紅ショウガもある。

<干物>

パサールやスーパーで干椎茸やキクラゲがある。

<菓子(材料)>

スーパーにはゼラチン、コーンスターチ、エッセンス、干ブドウ、白玉粉などがある。日本食品店にはせんべいなど日本製のお菓子がある。

<嗜好品>

スーパーなどで日本酒を含むアルコール類、紅茶、麦茶、コーヒー、ウーロン茶、日本食品店ではトラジャコーヒー、梅酒、玄米茶、緑茶、焼酎、日本酒、ウイスキーを扱っている。

<調味料>

パサールなどで塩（荒塩）、ケチャップ、コショウ、グラニュー糖、香辛料、日本食品店ではSBカラシ粉、酢、ワサビ粉、醤油、ミリン、だし、トンカツソース、ラー油、カレールー、練りワサビ、練りカラシ、マヨネーズが入手できる。

(3) 食料の入手

日本食品は日本食レストラン「SHOGUN」の1階にあるコンビニエンスストア「ASKA（アスカ／所在地：Jl.Pantai Losari）」で手に入る。また、スーパー「GELAEL」（所在地：Jl.Sultan Hasanuddin）にも若干ある。ASKAでは切り餅、カリフォルニア米、インドネシア産日本米、しらたき、こんにゃくなどを置いている。GELAELで入手可能なのはパン粉、天ぷら粉、乾めん、インスタントラーメンなどである。

スーパーにはMakkasa（所在地：Jl.Pengayoman）、ALFA（所在地：Jl.Pengayoman）、Matahari（所在地：Jl.Sungai Saddang）などがある。

パサールは多数あるが、比較的よく利用されているのはPasar Central（所在地：Jl.HOS Chokroaminoto）やPasar Ikan（所在地：Jl.Pasar Ikan）である。Pasar Ikanは魚が主で、朝早く出かければ比較的新鲜な魚が入手できる。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

電化製品は、外国メーカーの製品が多く、ほとんどの物が調達可能である。冷蔵庫は住宅に備え付けられていることが多いが、2台は必要である。炊飯器、トースター、オーブングリル、ジューサーミキサー、ポット、コーヒーメーカー、ホットプレート、電気コンロ、電子レンジなどもある。ただし、電圧が異なる(220v)ため任期終了後日本で使用するのは困難である。

コップ、ガラス鉢、コーヒーカップ、皿などはある。しかし、品質は期待できない。保温機能のある弁当箱などもある。

たいていの調理器具は入手できる。

(2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具など

電化製品は上記を参考にされたい。変圧器は当地で入手可能である。

圧力鍋、包丁(当地製品は切れ味が悪く出刃、牛刃はない)、さらし布、汁椀、急須、湯のみ、丼(深皿、代用品はある)を持参するとよい。

1-3 外食

(1) 飲食店

チップは必要ない。多人数の場合は予約したほうがよい。邦人がよく利用するレストランは次のとおりである。

SHOGUN (日本料理)

所在地：Jl.Penghibur No. 2

電話：324102

Ratu Muda (Baru、インドネシア料理)

所在地：Jl.Lamadukelleng 24

電話：856087

Aromarabakkan

所在地：Jl.Chaere Anwar No.23

電話：324520

ウジュンパンダンの名物料理Coto Makassarはあちこちで食べられる。

(2) その他の飲食店

該当情報なし。

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

1年は乾期（5～11月頃）と雨期（11～4月頃）に大別される。年間の平均気温は25～30℃で、1年を通してほとんど夏服で過ごせる。乾期は降雨量が少なく晴天が続く、湿気は少ないが1日数回着替えが必要である。雨期に入ると朝から雨が降り、気温も下がるので、人によっては長袖やカーディガンなどがほしくなる。またこの時期にはタオルケット、ときには毛布がほしくなることもある。

衣服は豊富であり、セーターやジャンパーまでほとんどの物が手に入る。特に若者向け衣料は、日本と同様、デザインも色彩もカラフルで現代的な物が多い。ただし、縫製が雑なためほつれやすく、破れが早い。インドネシアで縫製された日本ブランドの衣料も多く、価格は安い。

洗濯回数の多いことや洗濯方法、太陽光線が強いことなどから、衣服の色あせや傷みが激しいので、素材や型の選び方に留意するとよい。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

日本的な特殊な物を除けばすべて手に入るが、着任当初は何かと忙しいため、当座（アナカンが到着するまでの1カ月分）の身につける物は持参したほうがよい。

下着などは縫製のしっかりした日本製が長持ちし経済的である。男性の綿の靴下も少ないので持参したほうがよい。

靴類は児童用、運動靴、サンダルなどが当地で揃うが、長靴は見かけない。当座の履き物（サンダルなど）は持参するとよい。また、日本のようなスリッパは少ない（スリッパに代用できるベタンコのサンダルは多くある）。

当地は寝間着に着替えて眠る習慣がないためパジャマなどは売られていない。

乳幼児についても、オムツを使わずパンツのみで育てているため布オムツが必要であれば持参する必要がある。紙オムツはある。

シーツ、毛布、バスタオルなどはある。タオルケットはあまり見あたらないので持参するとよい。

(3) 任国で調達したほうがよい衣料

布地が豊富にあり、仕立代が非常に安いのでオーダーメイドがすすめられる。スーツなどはお気に入りの物を見本に持っていくのが得策である。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-2 礼装

(1) パーティー

盛装が必要なパーティーは少ない。男性は長袖のバティックがあれば失礼にならないが、ウジュンパンダンではインドネシア人もスーツを着用しているケースが多い。

女性はワンピースなどでよいが、バティックのワンピースが最良である。男性、女性ともに長袖が正装である。

自宅でのパーティーなどに浴衣を着ると社交に効果的である。

(2) 式典

スーツまたはバティック、業務関係ならサファリでも問題ない。

(3) 冠婚葬祭

式典と同様である。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店は数軒ある。アイロンは日本のメーカー品も手に入る。最近では洗濯機を利用する家庭が増えている。入居の際、あらかじめ電器店で調べた型番を家主に伝え、備えてもらうとよい。

(2) 仕立て、修繕

仕立店は多く値段も安いですが、技術のある店はそれなりに高いので、目的に応じて店を選ぶとよい。先に赴任している人から情報を得たり、何軒かを試すとよい。

参考となるスタイルブックはあるが数は少なく、流行も若干遅れている。好みの洋服が載っているスタイルブックがあれば日本から持参するとよい。

修繕は、簡単なものなら当日か次の日に仕上げてくれる。ズボンなどの裾あげは専門の店があり、デパートなどでは扱っていないことが多い。

(3) 保管

乾燥した晴天の日にはタンスを開放して風を通したり、衣類の陰干しをするとよい。一時帰国など長期間留守にする際はカビに要注意である。防虫剤はスーパーなどで売られている。

3. 住宅

3-1 一般事情

外国人住居は一戸建てである。現在のところマンションや高級アパートはない。大きな家には住めるが、満足できる設備は整っていないケースが多く、入居前後に手間がかかるのが一般的である。

3-2 ホテル事情

JICA専門家がよく利用するホテルは次のとおりである。JICA料金がある。

Hotel Sedona

所在地：Jl.Somba Opu No.297

電話：0411-870555

料金：シングル60ドル(21%税)、ツイン70ドル(21%税)、朝食含む

Hotel Sahid Makassar

所在地：Jl.Dr.Sam Ratulangi No.33

電話：0411-875757

料金：シングル27万5000ルピア、ツイン27万5000ルピア、朝食含む

Hotel Radisson

所在地：Jl.Somba Opu No.235

電話：0411-333111

料金：シングル16万9000ルピア(21%税)、ツイン16万9000ルピア(21%税)、朝食含む

Makassar Golden Hotel

所在地：Jl.Pasar Ikan

電話：0411-314408

料金：シングル27万2250ルピア、ツイン27万2250ルピア、朝食含む

Victoria International Hotel

所在地：Jl.Jend Sudirman No.24

電話：0411-328888

料金：シングル27万5000ルピア、ツイン30万ルピア、朝食含む、無料空港送迎有り

上記ホテルはいずれも長期滞在時や赴任当初の利用が可能である。赴任当初の滞在については、勤務地との距離、家族構成、予算、食事場所などの兼ね合いもあるので、当地の専門家に相談するとよい。1カ月以上の滞在であれば、ホテルと交渉すればより安くなる。

3-3 住宅の探し方

a)ブローカーの紹介、b)前任者の家を引き継ぐ、c)ほかの専門家からの家主の紹介、d)カウンターパートの紹介、などがある。あらかじめ、前任者などがいくつかの候補をあげておき、その中から選定することが多い。

紹介を得て契約が成立した場合は、紹介者に家主から礼金が出るようである。

3-4 住宅の選定上の留意点

まず電話があることが第一条件である。家主の口約束だけではいつ設置されるかわからないので、すでに電話のある家が良い。

水は井戸水と水道の共用が多い。井戸はさほど深くなく、乾期には枯れるケースもある。水の出具合、井戸の深さなども調べておくほうがよい。

雨漏りは、住居の新旧にかかわらずある。雨漏りの跡などをよく確かめる必要がある。一般に、勾配の大きな屋根で軒の深い建物は問題ないが、平らな屋根や軒の浅い建物は要注意である。

家族の生活域と使用人の居住域は鍵付き扉などで隔てられていること。また、門、塀、道路に近いガラス戸などには錠、有刺鉄線、鉄格子などが必要である。

設備、備品については、必要な物（冷蔵庫、エアコン、網戸、バスタブなど）はすべて契約前に要求し、その達成を見てから家賃の支払いをするのが基本である。

モスクが至るところにあり、早朝から拡声機を通してお祈りが聞こえてくる。モスクの近くは避けたほうがよい。

雨期に入ると各所で洪水が起こるので、排水のよし悪しも考慮すること。

3-5 住宅の契約

希望条件に近い、納得できる住宅が見つかったら、仲介業者立ち会いのもと、家主と具体的な交渉に入る。契約年数、備え付けの家具調度品、電化製品、カーテン、カーペットや、建物の補強、塗り替え、修理箇所などの相互確認および家賃の支払い方法などを取り決める。

通常、家賃の支払いは前渡し金（手つけ）、契約金（契約時）、残金（入居時）の3ステップ、または前渡し金（契約時）と残金（契約後1.5カ月ぐらい）の2ステップで行う。前渡し金は総額の5～10%が普通である。

信頼できる紹介者を介している場合を除き、口約束はトラブルのもとである。トラブルが発生した場合、その判断は契約書の記載事項に委ねられるので、細かい点についても明記しておく必要がある。たとえば、ドルで支払う場合、銀行手数料が1%かかるが、それをどちらが負担するか、前渡し金をどの程度支払うか、家具設備費はど

ちらが持つか、補修の条件、家屋・家具保険の加入などである。

貸借期間終了後、建物や家財を契約時の状態に戻すという条件は、削除するか適用を大幅に緩和させるのが賢明である。

契約書には一定の様式があるようであるが、最も大切なことは、その家の持ち主が当人に違いないとの確認（登記書のコピーをもらう）である。また、物件が担保になっているか否かを確認し、なっている場合は相手（銀行など）の賃貸合意書をもらう。

3-6 電気、ガス、水道などの手続きと管理

家屋・家具の保険については、契約時に家主に加入してもらうとよい。

防犯対策としてボーイ兼夜警を雇っている家庭が多い。また、自治会単位で夜警が回っているところが多く、月額2500ルピア程度を負担することになる。

公共料金（電気、電話）は、毎月10～20日までの間に指定された口座へ支払う。請求書などは来ないので、前月の領収証を持参すること。家主が毎月かかる諸経費（光熱費など費用）を立て替え払いし、その領収書をもって請求してもらう形にすればめんどうがない。契約前に家主と交渉してみるとよい。

ガスはプロパンガスで、巡回しているトラックから買う。いつも1本余分に備えておくのが賢明である。

各家庭の近くにゴミ箱が置かれ、定期的に収集される。ゴミ収集料は地域によって異なるが、月1000～3000ルピア程度である。

3-7 その他

該当情報なし。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法など）については、事前に医療関係者から専門的にアドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

インドネシアの他の地域と同様に、当地でも大きな病院でスンティクコティバーという3種混合（コレラ、破傷風、チフス）の予防接種を受けることができる。た

だし、時間的余裕があれば日本で済ませたほうが安心である。

(2) その他の準備

渡辺義一氏・大橋誠氏著の『海外で健康に暮らすための手引』などを読んで、熱帯医学の知識を得ることをすすめる。

健康診断を受け、持病のある人はレントゲン、心電図、超音波写真などのコピーを持参すること。たいていの医薬品は薬局で手に入るの、かかりつけの医師から持病に必要な治療薬の原薬名（商品名でなく）を聞いておくとよい。

特に歯は赴任前に完治させること。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

市の中心部にいくつかの総合病院がある。邦人医師はいないが、Dr. Wahidin Su dirohusodo病院には日本留学経験者が何人かいる。

<民間総合病院>

R. S. S. Stella Maris

所在地：Jl. Somba Opu 273

電話：0411-854341

入院費：1日あたり22万5000ルピア/night (VIP)

外来受付：7：00～17：00

健康診断：2日間で26万5000ルピア、胃のX線可・超音波診断は不可

R. S. Akademis

所在地：Jl. Gunung Bulusaraung 57A

電話：0411-320279、320280～2

入院費：1日あたり50万ルピア/night (VIP)、他に安い部屋もある

外来受付：24時間。救急車あり

健康診断：2日間で42万5000ルピア。胃のX線・超音波診断も可能

<国立総合病院>

RSU Dr. Wahidin Sudirohusodo

所在地：Jl. Perintis Kemerdekaan Km 11

電話：0411-510677

入院費：1日あたり10万ルピア/night (VIP)

外来受付：6：00～16：00

健康診断：最大1週間で20万ルピア、胃のX線・超音波診断も可能

※R. S. : Rumah Sakit = 病院

上記の病院はいずれも全科の診療を行っており、入院可能、予約は必要ない。また、注射針などはすべて使い捨てを使用している。

上記の病院の勤務医が、夕方からは自宅で開業しているケースがある。

広島大学で博士号を取得したフスニ・タンラ教授（麻酔科専門医）がいる。フスニ医師は日本語が堪能で細かいニュアンスも理解してくれる。適当な専門医の紹介もしてくれる。

Dr. Husni Tanra

所在地：Jl. Sunu G-5

電話：0411-323645、434232

携帯：0816-25-1597

ほかにLaboratorium Klinik "Prodia" (Jl. Gunung Tinggimae 25 電話：324223) と呼ばれる医療検査所があり、尿・便・血液検査ができる。

(2) 緊急時の対応と措置

各総合病院とも救急の受付は24時間体制である。ただし救急車はあてにならない。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

街にはたくさんの薬局 (Apotik) があり、スーパーなどでも薬が売られているが、普段飲みつけている薬があれば1年分くらいを持参するとよい。特に、小児用の医薬品は補充がきかないため、かかりつけの医師から十分な量をもらってくるとよい。

細菌性の下痢などに備え、入手できれば抗生剤も持参するとよい。

(2) 任国で調達できる医薬品

サロンパスから消毒薬、ドイツの医薬品から漢方薬まで豊富にあり、容易に入手できる。しかし、症状を的確に薬剤師に伝えることは困難であるので、医師の処方せんか、必要な薬品名とその処方を知っている必要がある。

(3) 任国で調達できる衛生用品

日常使用する衛生用品は揃う。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

医薬分業であり、医薬品の値段は高い。また、当地でも過剰投薬の傾向がある。

インドネシアの薬は概して強いといわれており、カゼ薬で気分が悪くなったケースもある。まず使い慣れた日本の医薬品を服用し、それでも思わしくないときに医師の診察を受けることをすすめる。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

当地での邦人の出産例もあるが、万一の事態を考慮すると、帰国しないのであれば、せめてジャカルタで出産したほうがよい。

(2) 出産後の対応

該当情報なし。

(3) 育児

育児用品は、布オムツを除き入手可能である。ジョンソン製品が出回っているの
で特に日本から持ち込む必要はない。粉ミルクは製造年月日を確認して購入すること。乳児用粉ミルクは豊富である。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

Akademis病院やS.Stella Maris病院ではある程度の手術が可能である。ただし、術後管理や器具の衛生管理などには不安が残る。緊急時を除き当地での手術は避けたほうがよい。

(2) 手術設備等の状況

CT-SCANなどはある。豪華なVIPの病室（テレビ・電話・浴室付）がある。

(3) その他の留意点

輸血はできる限り避けなければいけない。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

下痢が最も多い。また、肝炎、デング熱、湿疹など、経口感染性の病気が多い。結核患者もまだ多い。

熱帯でもカゼをひくことはある。

(2) 風土病、伝染病

赤痢、コレラがある。

(3) 有害動物、病害虫

蚊、ハエ、ネズミ、ゴキブリ、アリがいる。ゴルフ場ではヘビに注意すること。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

水道か井戸水をポンプで汲み上げて使用している。水質はジャカルタよりいいが、必ず沸かして使うこと。

ミネラルウォーターのディスペンサーがあるので購入するとよい。1.タンク（9ℓ）で2万8000ルピアである。

(2) 濾過器の入手

当地で購入できる。日本から持参する場合はフィルターも多めに持参すること。

4～5カ月ごとに交換が必要である。

(3) 蚊帳、防虫ネットの入手

該当情報なし。

(4) その他の留意点

30℃を越す暑さゆえ、肉体的疲労は大きい。十分な休養と栄養をとること。食料品の保管、保存に留意し、冷蔵庫を過信しないこと。

参考文献として、在インドネシア日本国大使館の千葉渉医務官著『ジャカルタ医療案内（改訂版）』（在留邦人向け医療情報No.89-03 1989年11月28日）がある。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

邦人子弟は1999年6月現在合計11人おり、うち7人はマカッサルインターナショナルスクールに通っている。

現地学校のカリキュラムは日本とだいたい同じだが、パンチャシラ（建国の精神）、プラムカ（ボーイスカウト）、アガマ（宗教）といった時間もある。ミッション系私立学校もあるが、ほとんどが公立である。

(2) 日本人学校

日本人補習校が総領事館の敷地内にあり、在留邦人のボランティアや父兄の協力により運営されている。授業はインターナショナルスクールや現地校の放課後に行い、算数（数学）と国語を基本に時間割が組まれている。

ウジュンパンダン日本語補習授業校

所在地：J1. Jenderal Sudirman No.31（在ウジュンパンダン日本国総領事館内）

電話：0411-871030

備考：小1から中3まで（小1入学前に約3カ月の入学準備教育もある）

(3) 現地校、外国人学校

マカッサルインターナショナルスクールがあり、外国人子弟が学んでいる。プレス

クールから中学まであり、3歳から12歳までが在籍している。

1999年6月現在の在校生は全校で25名であるが、来年度（9月から新学期）は約35名になる予定である。授業はすべて英語で行われる。

Makassar International School

所在地：Jl. Andi Nappanyukki No. 15

電 話：0411-872591

備 考：5歳以上は父親がインドネシア以外の国籍を有する児童に限られる

(4) 幼稚園

上記マカッサルインターナショナルスクールに幼稚部がある。その他にも入園可能なところは多数あるが、インターナショナルスクール以外はインドネシア語を使用している。

5-2 入学手続きおよび授業料

(1) ウジュンパンダン日本語補習授業校

入学願書に入学金を添えて申し込む。入学金6万ルピア、授業料6万ルピア/月（学期ごとに徴収、8月も徴収）である。通学は各自で行う。

学期は日本の学校に準じており、休校日はインドネシアの休日である。

(2) 現地校、外国人学校

マカッサルインターナショナルスクールの場合は入学願書に記入し、校長と面接する。願書には旅券番号、査証番号などが必要である。他に予防接種歴などを記入する。

授業料はプレスクール（3～4歳）3100USドル、キンダーガーデン（5歳）5850USドル、グレード1～8（6～12歳）6500USドルである。

(3) 幼稚園

インターナショナルスクールの幼稚部については前項を参照のこと。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

インターナショナルスクールの図書室を利用できる。日本語書籍については日本語補習授業校に所蔵されているものと、領事館に付設されている図書室が利用可能である。

(2) スポーツ施設

Panakkukang Mas Country Clubにはプール、トレーニングジム、卓球台、ビリヤードやテレビゲームもある。レストランも整備されている。会員制であるが、プールや

レストランは会員外でも利用可能である。インターナショナルスクールの水泳の授業はここで行っている。

Sedona Hotelにもプールがあり会員制で利用できる。その他、Hotel Pantai GapuraやMarannu Garden Hotelにもプールがある。

そのほか、エアロビクスやテニスも盛んである。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

語学については、9歳から語学学校でのコースが受けられる。家庭教師も可能だが、小・中学の各教科については不明である。

ピアノの個人レッスンが受けられる。

(2) 通信教育

邦人子弟が受けているのは海外子女教育振興財団の通信教育で、教科は国語、算数、生活、理科、社会である。年額3万6000円で、教材は毎月送られてくる。教科書に沿った内容であるため大変有効であると思われる。特に、国語にはテープ教材がついており、楽しく学習できるようである。詳細は下記に問い合わせるとよい。

海外子女教育振興財団（ホームページ：<http://www.joes.or.jp>）

東京本部

所在地：〒105-0000 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル6階

電話：03-3580-2521（代表）、03-3580-2827（通信教育課）

FAX：03-3503-7238

E-mail：joes1@netforward.or.jp

関西分室

所在地：〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-200 大阪駅前第一ビル2階

電話：06-6344-4318

FAX：06-6344-4328

(3) 携行したほうがよい家庭学習教材

教科書は、現在通っている学校で使用している物と違う場合があるので、必ず上記の海外子女教育振興財団に問い合わせ、海外の学校で使用されている教科書を携行すること。在留していれば領事館を通じて無償で教科書がもらえるが、年度の途中で転入学の場合は支給されない。上下巻ある教科書は、できるだけ下巻も携行したほうがよい。当地でも教科書の取り寄せは可能だが、郵便事情や送料を考えると携行したほうが安心である。

小学校低学年の場合は、各教科に合わせた日本のノートが必要である。問題集などは特に必要ない。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

各家庭の事情により異なるが、通例、運転手1人、家政婦/夫2人（料理1人、洗濯1人）と、必要があればボーイ（庭師、ガードマンを兼ねる）も雇用している。各人が休暇をとっても誰か1人は家にいる体制にしておくこと。

6-2 運転手

(1) 雇用

当地の人（家主、運転手仲間など）の紹介で雇用することが多い。紹介者は素性のしっかりした人が望ましい。運転免許などのIDはコピーして保管しておくこと。

勤務形態は各家庭で異なるが、通勤の場合は遠隔者は避けたほうがよい。

下記の事項について話し合い、契約書も作成するのが賢明である。

<勤務形態（参考例）>

勤務：通いで7：00～17：00のうち9時間拘束。たとえば7：00～16：00など

休暇：月2回（または週1回）と国民の休日。有給休暇は年12日程度（断食明けなどに利用）

賃金：基本給27万ルピア

諸手当：残業手当（2000ルピア/時）・休日出勤手当（2万ルピア/日）・遅くなった際の夜食手当（3000ルピア）・遠距離手当など

支給方法：月払いが一般的だが、双方の都合により取り決めるとよい

食費：支給しない。20：00を過ぎた場合は夕食代として3000ルピアを支給する

退職金：月給の2～3カ月分

試用期間：3カ月間（この間、給料は2割程度減）

昇給：通例、雇用開始以降1年ごとに1割前後

ボーナス：イスラムの断食明けに月給の1.5カ月分程度を支給。クリスチャンの場合はクリスマス前に支給

(2) 日常管理

毎朝の点検、車両の清掃などを習慣づける。車体の傷などは必ず報告させること。勤務表に勤務時間・走行距離・ガソリン補填量などを記録させる。

(3) 教育指導

インドネシア人はとかくスピードを出したがる傾向がある。雇用当初に徹底して教育することが肝心である。

(4) その他の留意点

バイクを持っている人でなければ、遠くからの通勤は大変である。信頼関係ができてからはバイクを貸し与えているケースも見受ける。

6-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

各家庭の事情にもよるが、通常、家政婦／夫とボーイを雇用している。家政婦／夫は料理担当者1人、洗濯その他の雑用担当者1人の2人を雇用する。ボーイは1人で床掃除、庭掃除などを担当する。最初は料理ができない人でも、教えると和食もできるようになる。できれば、ベテラン家政婦／夫と若くて素直な家政婦／夫の組み合わせがよいようである。

(2) 雇用

雇用方法は運転手と同じである。家政婦／夫が2人というのは、各人の精神衛生上必要で、使用人同士の関係がうまくいくことが大切である。

契約書は、読み書きが苦手な人が多いので作成していないのが現状である。それでも、面接時にお互いが納得するまで、きちんと話し合うことが大切である。身分証明書KTPを提示させ、コピーをとっておくこと。

勤務形態や条件は各家庭により異なるが、参考例は次のとおりである。

勤 務：住込みが多いが通いも可能である。就業は6：00から夕食の片付けまでであるが、
通いの場合は終業時間も設定する（20：00など）。

試用期間：2カ月程度

休 暇：1カ月に2日程度と断食明け休暇（クリスマス休暇）、通いの場合は国民休日の
ほか有給休暇を年12日程度（断食明けなどに利用）与える

支給方法：住込みの場合は月額10～20万ルピアを月初めに支払う（ただし、試用期間中はそ
の7～8割でよい）。通いの場合は月額20万程度と諸手当

食 費：給料に含んで支給

そ の 他：寝具、鍋、コンロなど調理器具一式、食器類などを支給

超過勤務：通いの場合は2000ルピア程度、また、通常より多忙なときもそれに応じて随時謝
礼を支払う

退 職 金：月給2～3カ月分

昇給：雇用後1年ごとに10～20%程度

ボーナス：断食明け、またはクリスマス前に給料の1～2カ月分を支給

禁止事項：無断外出、無断で人を家に入れない

(3) 日常管理

最初は、調理などの際に衛生的な考慮がなされているか注意を払う必要がある。調理器具や器物が清潔に取り扱われているか、調理手順に手抜きなどないか観察すること。

言葉や習慣の違いに苦勞することと思うが、最初の指導が肝心である。一度手抜きを見過ごすとそれが常態化しやすい。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

専門のガードマンを置いている家は少ない。また、必要に応じて庭師に来てもらうことはあるが、専属の庭師を雇用している家はない。警備や簡単な庭の手入れはボーイが兼任している。庭の手入れは家主さんに頼んでもよい。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

ウジュンパンダンへは空の便でジャカルタから2時間、バリから1時間で1日3便就航している。スラバヤへの便もある。

長距離バスがスラウェシ各地方都市へ運行されているが、邦人が利用する機会は少ない。

邦人の交通手段は、自家用車が主である。

市内にはベチャ、市バス、ミニバス (Pete Pete) があり、ジャカルタと比べると安心して利用できる (ベチャの料金は交渉による。バスなどは400～600ルピア)。

タクシーについては、ホテルに待機しているもの以外にも、メーター制のタクシーが4社あり、街中では拾いやすい。初乗り料金は2000～3000ルピアである。

(2) 自家用車を利用する場合

ジャカルタと比べれば交通量は多くないが、ちょっとしたことで渋滞が起こる。

交通法規はあってなきがごとの状態であり、自らの運転は極力避けたほうがよい。

(3) レンタカーなどを利用する場合

赴任後自分の車が届くまで、2カ月近くを要するため、その間の車の調達を考えねばならない。次のSantigi Asriでは運転手付きで車を派遣してくれる。

PT. Santigi Asri (Ms. Djumriah) ……電話：0411-457587

(4) 道路地図

日本のような正確な道路地図は見あたらない。比較的詳細でわかりやすいのは、PERIPLUS社のシリーズPeriplus Travel MapsのUjung Pandang編である。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

安全対策のマニュアルなどを参照のこと。

まずは保険に入っておくこと。こちらに非がない場合でも、修理・治療費を払うつもりでいたほうがよい。

現場処理は運転手に任せ、自分を出て行かないほうがよい。騒ぎが大きくならないよう、おとなしく車内にいること。ひと段落ついたら速やかに現場から離れる。

大きな事故の場合は総領事館やJICA事務所に連絡すること。

(2) 救急病院

前述の病院には救急部門もあり、救急車なども待機している。

(3) 盗難

車両本体の盗難はあまり聞かないが、カーステレオ・ホイールキャップなどは被害に遭いやすい。運転手は常に車から目を離さないよう義務づけること。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

日本と同じく左側通行である。法規はあるものの守られていない。

道幅は狭く横断歩道などはない。ベチャも多いので、より一層の注意が必要である。

(2) 対処方法

まず違反しないこと。運転手の教育が肝心である。検挙された場合の対応は運転手に任せる。数万ルピアの出費は覚悟しなければならない。

7-4 車の修理

(1) 部品

トヨタ・三菱の修理サービス工場（次項）で入手可能である。

(2) 修理工場

NV. HADJI KALLA (トヨタ)

所在地：Jl. HOS COKROAMINOTO 27

電話：0411-311111

Pt. BOSOWA BERLIAN MOTOR (三菱)

所在地：Jl. Jend Urip Sumohardjo No.188

電話：0411-444444

タイヤのパンクについては、街中至るところにある修理所で間に合う。

8. 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

回線数はまだ少ない。

テレホンカード型の公衆電話が増えている。カードは1枚持つておくと便利である。

(2) 国内電話

ここ数年で状況はかなり改善されているが、工事などのため予告なしに回線をストップされることがある。また、故障などの苦情を電話局に申し立ててもなかなか善処されない。

(3) 国際電話

日本からかけるより割高であるが、通話状態は良好である。各所にある電話ステーション Warung Telekomunikasi (WARTEL) からかけられる。

(4) 携帯電話

普及しており、安全対策上も有効なことからJICAもその所有を奨励している。ただし、街を外れると通じない。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

街で販売されている。JICA専門家宅にもファクシミリは一般的となったが、回線状態がよくないとしばしば送信エラーが出る。WARTELやホテルでも利用可能である。

(2) テレックス

該当情報なし。

(3) 電報

電報はTELKOMおよびWARTELで受け付けている。ただし、外国語の場合はスペルミスが多い。

(4) インターネット

該当情報なし。

8-3 郵便

(1) 一般事情

Kantor Pos Pusat (中央郵便局)

所在地：Jl. Slamet Riyadi

電話：323180

国内郵便には普通・準速達 (Kilat Khusus) ・速達 (Patas) がある。定形封筒で普通・準速達の場合約1000ルピア、速達で約6500ルピアである。ジャカルタまでは速達で2日ほどかかる。

国際郵便はEMSを使うと10日～2週間で日本へ届く。料金は約10万ルピアからである。

(2) 課税

小包は内容物により直接配達される場合と、連絡を受けて中央郵便局へ受け取りに行く場合とがある。受け取りの際は身分証を持参すること。税額は約2000ルピアからで、重量と内容によって異なる。

(3) 民間サービス業者

重要な書類や特に急ぐ物は民間クーリエ (TNT、DHLなど) を利用するとよい。

TNT

所在地：Jl. Boulevard Ruby I/17, Panakkukang Mas

電話：0411-459350

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

英字新聞、現地語新聞は次の業者に頼むと宅配してくれる。

Menur Agency

所在地：Babadan-KD, 8 RT 1/159A, Gedong-Kuning

備考：電話はないので手紙で依頼する。英字新聞の『The Jakarta Post』は月3万8000ルピア、現地語新聞『KOMPAS』は月3万3000ルピア、『Fajar』は月3万ルピア

(2) 本邦日刊紙

日本の新聞はジャカルタのOCSを通じて郵送可能である。

P.T. OCS Indonesia

所在地：Skyline Bldg. 11F

電話：326704、337819

(3) 欧米紙

ウジュンパンダンでは見かけない。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

国営ラジオ放送局（RRI）と民間放送局があるが、放送のほとんどはインドネシア語で行われている。受信は無料である。

(2) ラジオジャパン

ラジオジャパンは、3波ほどをプリセットしておき、時間帯で選択すれば聴取可能である。ときおり周波数が変更される。

NHK国際局編成部

所在地：〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

電話：03-3465-1111（平日10：00～19：00、日本時間）

番組表を含む情報提供サービス：<http://www.nhk.or.jp/rjnet/index-j.html>

日本語放送の周波数表Fax Service：03-5454-0888 情報番号260

(3) 聴取可能なその他の外国放送

該当情報なし。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

視聴可能なインドネシアの放送はTVRI、RCTI、SCTV、INDOSIAR、Anteve、TPIの6放送である。

パラボラによる衛星放送の受信もかなり普及している。

(2) テレビ受信

パラボラの設置によりパラバ衛星、インテルサット衛星を受信し、CNNの放送も視聴できる。デジタル受信機を備えればNHKをはじめ香港、オーストラリアなどの放送も楽しめる。

(3) ライセンス料金など

該当情報なし。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

映画館は多く、全席指定である。映画館により快適さはさまざまである。日本よりも早く米国の新作を見られることもある。料金は約7500ルピアである。

主な映画館はMakassar (所在地：Jl. Bali)、Studio 21 (所在地：Jl. Dr. Sam Ratulangi) などである。

(2) 劇場

該当情報なし。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

書籍はジャカルタから送られてくる。

(2) 書店

日本語書籍は皆無である。英文の専門書、読み物は若干ある。

主な書店はPromeida (所在地：Jl. Tentara Pelajar)、GraMedia (スーパーMakassarの2階) である。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

特に外国人向けのインドネシア語学校は見あたらない。

IKIP (教育師範学校) の文学部では外国人学生のインドネシア語研修プログラムを行っている。スタッフは揃っているのでProf. Haksa Nur (学部長 電話：861510) に依頼すれば特別にアレンジしてくれる。

英語学校はENGLISH FIRSTなど複数あり、希望により選択できる。

(2) 家庭教師

大学の先生の紹介などによる。日本語が堪能なDr. Agnes Rampisela (電話：458832) に紹介してもらうのも方法である。謝礼は1時間2万ルピアからである。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

特筆すべきものはない。

(2) 日本友好協会などの有無と活動内容

ウジェンパンダン日本人会があり、邦人相互の緊急連絡や安全のための情報交換、親睦を図っている。

AMDAの支部がある。

(3) その他の文化活動、文化施設

南の町外れにあるタマンミニ南スラウエシ (Open Air Museum Sulawesi Selatan) に南スラウエシの各県の伝統的建物が並び、中は博物館になっている。ジャカルタのタマンミニとは比べものにならないが、Jeneberang川の河口も眺められ、ピクニックのつもりで行けば楽しめる。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

コダック、フジ、コニカのフィルムが売られている。値段は36枚撮りで3万5000ルピア程度である。

写真現像は街中至るところにある写真店で可能である。1枚1000ルピア程度で、2時間ほどで仕上がることもある。スライドの場合はジャカルタに送られるので20日程度かかる。

カメラはシンプルで安価なものが多い、ニコン、キヤノンなど日本のメーカー品もあるが、外国仕様で故障が多いようである。

(2) ビデオセット

家電店で販売している。VHS・PAL方式が一般的だがMulti Systemも多い。Handy Cam (8mm Video) もあるがテープの入手できる店は限られる。

(3) 各種テープ

該当情報なし。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

ライブハウスなどはあるが大規模なコンサートは見られない。

(2) コーラス、演奏グループ

スマートなものは見かけない土地柄である。オルケスと呼ばれる演奏グループ (パーティーなどの余興で演奏している) があり、土臭さを楽しむのも一興である。

(3) ピアノなど

該当情報なし。

(4) CD、レコードなど

テープ・CD店があり、ロック、ポピュラー、ジャズ、クラシック、当地の音楽など豊富な品揃えである。テープで1万5000～2万ルピア程度である。CDも5万ルピア程度で大量に出回っている。

(5) 民族楽器

有名な物はない。

(6) その他の楽器

該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

(1) 手芸

民芸品は金・銀製品、織物、絹などである。タナトラジャの民芸品が多い。

(2) 絵画、美術工芸

展覧会はホテルなどでときどき催されている。

10-8 趣味

(1) 園芸

花屋が軒を連ねているのはJl. Urip Sumohardoあたりである。

(2) 釣り

海釣りを楽しめる。ロッテルダムフォートの前の船着場では船をチャーターできる。釣り具も入手可能である。

釣り堀は隣のGOWA県に2～3あり、魚料理のレストランも兼ねている。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

娯楽は映画やビリヤードくらいである。

(2) レジャーランド、遊園地

児童遊園地、ゲームセンターがデパートにある。

10-10 スポーツ

(1) テニス

テニスコートは多数ある。Hasanuddin広場・Karebosihi広場のコートにはコーチもいる。

(2) 水泳

公共のプールもあるが、特に衛生的なのは「カントリークラブ」で、50mプールと子供用プールがある。子供用プールも大きい。入場料は2万5000ルピアである。

(3) その他のスポーツ、用具、ウエア

ビリヤード、バレーボール、サッカー、バスケットボール、バドミントンなどがある。JL.Somba Opuにスポーツ用品店がある。

(4) スポーツクラブなど

市内各所およびホテルにフィットネスセンターがある。

邦人のゴルフ会として「さくら会」がある。また、日本人会主催のソフトボール会やJICA関係者のピサン会（ゴルフ、初心者でも安心）もある。

10-11 子供の遊び

該当情報なし。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

土日とインドネシアの祝日は休業である。

11-2 コンピュータ

該当情報なし。

11-3 美容院・理髪店

美容院は多い。当地に長くいる人に評判のよい店を教えてください。

理髪店も多い。理髪料は、こざれいな店で2万ルピア程度である。

化粧品はジャカルタのデパートで入手できる。洗面用具などは種類も品揃えも豊富である。

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

滞在期間中はできるだけ市外にも出かけ、風景や風俗習慣の違いなどを見て回るとよい。

交通手段にかかわらず、遠出する際は必ず飲み水（冷凍しておく）と非常食品（スナックなど）を携行すること。日本のように容易に食堂やドライブインが見つかる

は限らず、車内や船内での購入もままならない。

手洗いにも不自由するのでティッシュペーパーやトイレットペーパーのほか、タオル、おしぼり類も忘れずに携帯すること。自動車で移動する場合は水分を控えるのが賢明である。

旅券のコピーを忘れずに携帯すること。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

ウジュンパンダン近郊の観光地は次のとおりである。

バンティムルン

大きな滝があり、当地の人の憩いの場所となっている。休日にはかなりにぎわう。滝の上の池には蝶が多く、蝶好きな人には魅力的なところである。隣街のマロスから山沿いに車で20分くらいである。

マリノ

標高1000m以上の避暑地である。ここにある滝はバンティムルンより大型で見物である。かなり涼しく、朝夕には長袖が必要。馬に乗ることもできる。

日東紅茶の茶畑がある。ウジュンパンダンより車で約2時間。隣街のゴワより山側に進む。途中、日本の援助で完成したビリビリダムの横を通るので見学するとよい。

島々

ウジュンパンダンの近くに小さな島が点在しており、珊瑚礁を楽しめる。手軽に楽しめるのはサマロナ島（船頭さんをチャーターして40分ほど）で、当地の人も日曜には大勢やってくる。ただし、施設は日除け小屋と売店程度であるため、飲食物持参のこと。シュノーケルを借りることもできる。もう少し遠くまで行くとカポボサン島かランジュカン島がよい。日本食レストランの「SHOGUN」で船外機付スピードボートをチャーターし、約1時間半頑張れば人気（ひとけ）のない美しいビーチが待っている。ダイビングがしたい人はMakassar Diving Center（電話：3260560）に依頼するとよい。

ピラビーチ

南スラウェシの南のどん詰まりにある白砂のビーチ。ホテルはあるが、冷房があるのは4部屋のみである。あとは蚊に悩まされそうなコテージのみである。海岸線の景観がすばらしく、この宿泊施設に耐えられる人なら泊まる価値はある（沖縄県人も感動していた）。ダイビングの施設もあるが、非常に流れが早いので注意が必要である。1997年には邦人グループが遭難している。

マッカサル湾の夕日

誰でも楽しめるのがこれである。ホテルの海側の部屋に泊まりさえすればよい。日が沈んだあとは、海辺に並ぶ屋台でローカルコーヒーを飲むのもよい。

タナトラジャ

ツーリストにとってはスラウェシといえば秘境タナトラジャと連想するほど有名である。最近道路も舗装され、いいホテルもある。それでもウジュンパンダンからは片道7時間くらいかかるので少なくとも3日あるとよい。主な民芸品は木彫りの壁飾りや織物でトラジャ製が多い。コーヒーも有名である。

12-3 旅行

(1) 自動車

ガソリンスタンドの所在などをチェックしておき、ガソリンが切れないよう注意すること。山道には四輪駆動車が望ましい。

(2) バス

複数の路線があり安価であるが、危険をとまなう場合が多いため邦人の利用は少ない。

(3) 鉄道

国内をゆっくり見たいなら、鉄道の旅もまた楽しい。バンドンへ行くのであれば、特急パラヒヤンカン号が便利である。エアコンの付いている1等車 (Eksektif) の利用が無難である。ジャカルタのガンビール駅で5日前から切符を購入できる。当日券も発車の1時間前から発売しているが、長い行列に並ぶことになる。

(4) 航空機

旅行には航空機を利用するのが一般的である。

12-4 旅行代理店

Santigi Asri……電話：457587

ANTA EXPRESS……電話：318648

KENARI TUR……電話：452924

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

市内のホテルは直接予約してもよい (JICA料金を確かめること)。ジャカルタのホテルは、JICA事務所に頼んでもよい。そのほかの地域も代理店を通して予約すれば安くなることもある。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 一般事情

1997年の9月に暴動が発生したが、それ以降はインドネシアの他の都市と比べて落ち着いている。それでも政情が不安定なため注意が必要である。

(2) 緊急時の連絡

緊急時の連絡は、JICA事務所作成の緊急連絡網にしたがい電話かファクスで行われる。

ウジュンパンダンの日本人会でまとめられた緊急連絡網もあり、こちらは総領事館を中心に連絡が行われる。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況など

一般犯罪も増える傾向であり基本的な防犯対策は怠れない。

(2) 防犯対策

各家庭で、盗難保険、番犬、施錠、窓に鉄格子などの対策を講じている。周囲の邦人家庭などを参考にするとよい。警備員や清掃員など、顔見知りの人でも家の中には入れないほうがよいと思われる。

1992年度より「専門家治安対策連絡協議会」が設置されている。これはJICA派遣専門家の代表者やJICA事務所員などにより、原則として2カ月に1回の頻度で開催している。設置目的は、治安情勢、安全対策などを相互に情報交換し、連絡および協議を行って共通の認識を高めることにより、JICA関係者の安全確保の向上に資することである。事務局はJICA事務所内にある。

(3) 被害時の心得

強盗に遭遇した場合は、抵抗しないで金品の要求に応じるのが賢明である。JICA関係者は、被害状況をJICA事務所員に報告すること。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況など

毎年雨期（10月下旬～4月）にはスラウェシの地方都市を結ぶ幹線道路が水没することがある。乾期には水道が涸れやすく、ひどいときには井戸も涸れる。

地震は中部スラウェシなどを除き当地ではあまりない。パレパレ市では1997年に大きな地震があり死傷者が出ている。

スマトラやカリマンタンでは大規模な山火事が毎年発生するが、ウジュンパンダ

ンではその影響は少ない。

(2) 防災対策

非常時に備え、ある程度の飲料水や食品を備蓄しておくといよい。

(3) 被災時の心得

緊急連絡網にしたがい、連絡を怠らないこと。

14. 出入国手続きおよび帰国手続き

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

田舎の駅のような施設なので迷うこともない。一応国際空港であり、日本からはジャカルタかデンパサールで入国となるが、シルクエア（シンガポール）かマレーシアエアにて到着する際には当地で入国となる。

(2) 入国手続き書類

出入国カード（EDカード）に必要事項を記入する。出入国カードの左半分（Eカード）は、インドネシア出国の際に必要なので旅券とともに保管すること。

税関申告書は、インドネシアに持ち込む品物が免税範囲を超えない場合でも空港税関への提出が義務づけられている。

(3) 入国審査

旅客が少ないため早く終わる。

(4) 税関検査

該当情報なし。

(5) 空港内での留意点

該当情報なし。

(6) 空港からの主な交通手段

空港出口にタクシーカウンターがある。

(7) その他の留意点

該当情報なし。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

該当情報なし。

(2) 出国手続き上の留意点

該当情報なし。

14-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

長期滞在者は出国査証の取得が必要である。手続きはJICA事務所が行うが、約10日を要する。

(2) 車の処分

免税車の場合は出国査証の取得に売却証明が必要なため、帰国の1カ月前には売却相手と契約を結ぶこと。

(3) 家財道具の処分

該当情報なし。

(4) 住宅の明け渡し

電話代など光熱費の精算を忘れずに行うこと。帰国前に料金がわからない場合は、おおよその金額を家主に渡し、残金は銀行送金してもらうとよい。

(5) 外貨持ち出し規制

該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

赴任後すぐに必要な物は、できる限り携行荷物として持ち込むのが得策である。

免税で引き取る場合は、インドネシアの取扱業者は限定される。免税でない場合は、信用ある業者を選ばなければ引き取りに時間を要することがある。

インドネシア国内への輸送については、日通がすべてやってくれる。

(2) 輸入手続き

アナカン、海送荷物の場合は滞在許可取得との関係もあり、引き取りまでに1～2カ月を見込む必要がある。引き取りの際は、インボイス、パッキングリストのほか、海送の場合はB/L、空送の場合はAir Way BillをもってJICA事務所が免税手続きを行う。荷物がインドネシアに到着してから引き取りまでは、海送のほうが空送よりも早い場合がある。

(3) 家財道具の購入

該当情報なし。

15-2 自動車

(1) 一般状況

1974年1月22日以降、完成車の輸入は全面的に禁止されている。JICA派遣専門家には現地車（トヨタ、三菱、マツダ）の免税購入が認められている。購入から手元に届くまでには1～4カ月を要する。非免税車は早い。詳細はJICA事務所に確認すること。

(2) 輸入手続き

該当情報なし。

(3) 任国での購入

最近は免税車と課税車の価格差がそれ程大きくない。また、免税車は納車まで2～3カ月かかるため、売買の手続きも簡単な課税車を購入する人が増えている。

(4) 自動車登録

自動車の登録はKantor Polisi Lalu Lintas（下記）で行う。ブローカーかカウンターパートに依頼するとよい。

(5) 免許証取得

国際免許証を持参すると現地の免許証に15～20万ルピアで切り替えられる。日本の免許証では運転できない。

(6) 保険、税金

いくつかの保険会社があり、掛け金は自由設定である。最近では暴動による車両破損も対象にする保険がある。

車両登録税は年1回（免税車で7万ルピア程度）納める必要がある。

Kantor Polisi Lalu Lintas（交通関係の警察）

所在地：Jl. A. P. Pettarani

16. 社交

16-1 風俗習慣

インドネシア人と食事をともにする場合は、相手の宗教を承知しておくことが大切である。イスラム教徒は豚肉を食べず、ヒンズー教徒は牛肉を食べない。また、イスラム教徒は飲酒が禁じられているため、イスラム教徒の多い当国では飲酒は一般的で

はなく、普通の家庭や知人同士のパーティー、夕食に招かれても酒類が出されることは少ない。

インドネシア人は総体的に穏やかで忍耐強い国民であり、めったに他人を批判しない。しかし、いったん堪忍袋の緒が切れると激昂することがある。

ジャワの人を不意に訪問するとよく経験することだが、相手がマンディ（水浴び）をしてからあいさつに出てくることがある。マンディをしないまでも、顔と手足は必ず洗ってから出てくる。これは相手に対する礼儀であり、身を清め、気持ちを静めるためのディンギン（冷たい、冷静という意味）精神である。待たされても気を悪くしてはならない。

ただし、ウジュンパンダンの人は上品なジャワ人と少し異なり、特にブギス人とマッカサル人は物事をはっきり言うことが多い。ジャワ人よりわかりやすいが、押し強さには閉口させられる。名誉を傷つけられるとそれを必ず晴らす気質がある。

16-2 パーティーでの留意点

服装は、男性は背広または長袖バティック、女性も長袖を着用する。結婚披露パーティーでは背広も一般的である。

当地の人と積極的に接触し、国情、文化を理解するよう努力することが求められる。

立食パーティーが多く、夫妻単位でプレゼント持参で出席するのが習慣である。最近はお金を包むケースも増えている。

婚礼に招かれた場合は、新郎新婦へ「Selamat hagian selaru（末永くお幸せに）」、「Selamat menempuh hidup baru semoga berbahagia dan rukun-rukun selalu（新生活に入るおふたり、おめでとうございます。どうぞいつまでも仲良くお幸せに）」などとお祝いを述べる。

葬儀の際の遺族へのお悔やみは「Kami turut berduka cita（心からお悔やみ申し上げます）」という。

16-3 来客時の留意点

イスラム教の人にはアルコールや豚肉をすすめないこと、また、お祈りの時間を避けて招待すること。

「どうぞ」と言うまでは、食べたり飲んだりしない習慣があるので、「どうぞ召し上がってください」と声をかけるなど細かな気配りが必要である。

16-4 訪問時の留意点

日本での礼儀作法をわきまえていればよい。

16-5 禁止されている言動

人に物を渡すときに左手を使わないこと。

大声で人をののしったり、しかったりしてはならない。使用人も人前で怒鳴ったりしないこと。

日本では子どもの頭をなでる習慣があるが、インドネシア人は頭に触れられることを嫌うので注意すること。

会話の際に腰に手をあてるのは怒りのしるしとされている。また、足を組むのは不遜な態度ととられることがある。これらの癖がある人は気をつけること。

よほど親しい間柄でなければ、相手の服装を話題にするのは避けたほうがよい。無神経に肌を露出してはならない。

17. 任国官公庁

Kantor Gubernur TK I, SulSel (南スラウェシ州庁舎)

所在地：Jl.Urip Sumoharjo No.269, Ujung Pandang

18. 在外日本関係機関など

在ウジュンパンダン日本国総領事館

所在地：Jl.Jenderal Sudirman No.31, Ujung Pandang

電 話：0411-871030、872323

F A X：0411-853946

備 考：必ず在留届の提出をすること。敷地内に日本語補習校がある。日本語書籍もある

JICA UJUNG PANDANG

所在地：Jl.LANTO DG PASEWANG 41/49, Ujung Pandang

電 話：0411-873068

F A X：0411-851908

19. 地方都市

該当情報なし。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する専門家などのJICA関係者が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、特に生活情報を提供するものです。

専門家などのJICA関係者は、技術協力協定などの国際約束に基づいて派遣されておりますので赴任国で課せられる税金が免除されることがあります。任国情報はこうした関係者を対象として作成されておりますので、あらかじめご了解願います。

……………アジア地域……………

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア (ジャカルタ、バンドン、ウジェンバンダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム
19. モンゴル

……………中近東地域……………

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブ・ダビ、アマン)
16. イエメン (サナア)

……………太平洋地域……………

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. バラオ
5. バブア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア
9. トンガ
10. マーシャル諸島

……………欧州地域……………

1. カザフスタン
2. キルギス
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー
8. ブルガリア
9. チェッコ
10. ルーマニア

……………アフリカ地域……………

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エティオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサオ
11. 象牙海岸共和国
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア
26. トーゴ
27. ザイール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ボツワナ
32. エリトリア
33. 南アフリカ
34. ジブティ
35. ウガンダ
36. ブルキナ・ファソ

……………中南米地域……………

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ、ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダード・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア
21. ジャマイカ
22. エル・サルヴァドル

「任国情報(インドネシア<ウジュンバンタン編>)1999年度版」

平成12年5月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03)3269-2357

